

2013年2月14日

兜梅七分咲き

天草市浜崎町、延慶寺の兜梅の花がきれいに咲いている。

兜梅は、樹齢500年と言われ、臥龍梅だ。

臥龍梅といえば、八代市松浜軒のが有名だが、ここ天草の梅の木も負けずと劣らず素晴らしい。

くたくだ述べるより、写真を見てもらう方が、一目瞭然、この梅木花の魅力が分かるので、以下照覧あれ。

また、かつてここを訪れた司馬遼太郎が、その時の感想を名文で述べているので、写真の前に、それを紹介しよう。

柴折戸を押すとすぐひらいた。なかは瀟洒な茶庭で、庭としてはよほど古いものらしく思われた。

さらに庭の奥へ侵入すると雀色の夕闇いっぱい、無数のクリーム色の点がうかんでいた。三千世界に梅の香満ちるということばがあるが、香よりも何よりもこの場の情景は、花の美しさだった。

幹や枝などは、夕闇に溶けてしまって、よく見えなくなっている。無数の花だけが、宙に、地面に、浮かんでいるのである。

樹齢は五百年ほどだという。

ぜんたいに低く、苔の丘いっぱいひろがっている。

目をこらすと、原の幹は鉄のかたまりのように地にうずくまっているだけである。そこから、いずれも百年は経つかと思われる太い幹が、地に横たわりつつ幾つかの方角に伸び、幾頭かの臥龍が動いているようにも見える。その臥龍ごとに根がつき、その根のあるところからまた幾つかの小古梅が幹を立て、枝を天に突き出し、あるいははからませている。それらがすべて花をささえている。

白梅にはチリ紙のように薄っぺらい白さのものが多いが、ここの梅の花は、花卉の肉質があつく、白さに生命が厚っぽく籠っているような感じがする。ともかくも、こういう梅の古木も花の色もみたことがなく、おそらく今後も見ることがないのではないかと思われた。

「街道をゆく 17 島原半島 天草の諸道」朝日文庫より



臥龍梅との名そのものの、地を這う根元付近。



紫折戸

この戸を開くと梅の花がすぐ鑑賞できる。

無料で、しかもお寺に断りもせず鑑賞できるのでありがたい。

また、手入れをに心血注いでいる関係者の皆さんに感謝。



司馬遼太郎が、おそらく今後も見ることができないだろうと絶賛した、白梅の花。